

簡易ハウスとミスト散水装置を利用した ブルーベリーの挿し木増殖技術

ブルーベリーの苗木生産は挿し木増殖で行われています。農家でも、自家増殖が許可されている品種については、苗木購入費の削減のため自ら増殖する例が多く見られ、ハイブッシュブルーベリーでは、一般に露地トンネル施設で休眠枝挿し（落葉した2～3月の枝を用いた挿し木）が行われています。しかし、品種によっては発根率が低く、安定的な挿し木増殖技術は確立されていません。群馬県農業技術センターでは、ミスト散水装置を設置した簡易ハウスでハイブッシュブルーベリーを安定的に挿し木増殖する技術を開発したので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. パイプハウス内に挿し木床を設け、簡易増殖用ハウスとします。パイプハウスの地上高 2.0mの位置に、ミスト散水ノズルを 1.0m間隔で付けたパイプを設置し、散水はタイマーをつなげた電磁弁で制御します。パイプ内で停留して高温となった水が散水されないように、下部に自動水抜き弁を装備します（図）。

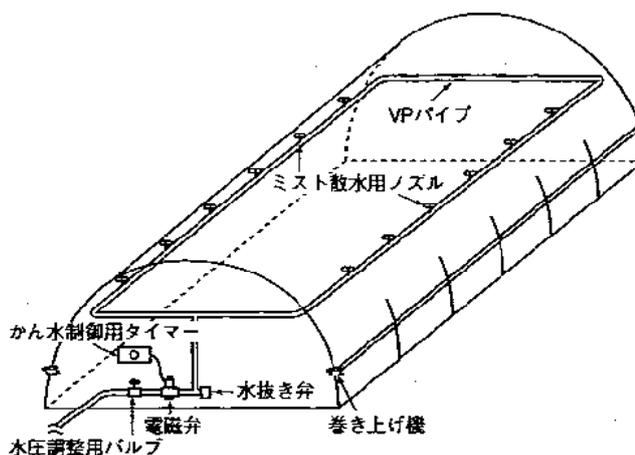


図 挿し木繁殖用簡易ハウス模式図

2. 鹿沼土とピートモス（酸度未調整）を等量混合した用土を、育苗箱に深さ 10cm に充填し挿し木床とします。

3. 挿し木時期は3月中下旬とし、挿し穂の2分の1程度が土中に入るように挿し木します。挿し穂の長さは慣行の 10cm が適当ですが、苗木本数を確保したい場合は、5cm 程度まで短くすることが可能です。

4. ミスト散水は、挿し木の開始から新梢伸長期には、日中（午前7時頃～午後5時頃）に1時間間隔の1分間散水とし、伸びた新梢が硬化し始めたことを確認した後、2時間間隔の1分間散水に切り替えます。

5. 上述の方法で挿し木した場合、従来の露地トンネルで挿し木した場合と比べて、発根率と発根量が大幅に向上します

☆ 活用面での留意点

増殖用ハウスは完全に密閉すると、穂木が蒸れて枯死する場合がありますので、サイドの裾を開けて、風通しを良くします。その他、詳細については、群馬県農業技術センター中山間地園芸研究センター（電話：0278-22-3358）にお問い合わせ下さい。

（日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 後藤 明彦）